

第3期中期計画についての委員の主な発言内容 (令和5年度 第1回評価委員会)

1 教育研究について

- ・3つのポリシーについて、計画の中に、常に見直していくという内容の表現を入れられた方が良い。

2 地域連携・社会貢献について

- ・「環境」の文言を記載できないか。地球温暖化の問題等に、芸術として、解決策を提案していくなど様々な取組が考えられる。
- ・社会人や子どもへの芸術教育について、中期目標では、リカレント教育、学び直し、子どもへの芸術教育などの具体的な項目が書かれている。このような項目を計画の中に織り込んでいかれると良い。
- ・芸術教育に関して、社会人はもちろん、子どもの育成はとても大事である。例えば施設で展覧会を催す等、具体的な内容を入れてはどうか。

3 財務について

- ・経費の効率化について、指標を工夫する必要がある。少人数教育を標榜している限り、ベンチマーク順位はとても悪くなる。経費の効率化と少人数教育の成果はまた別であり、少人数教育なので単純な効率化は良くないが、大学の教育の成果としては非常に大きいということが分かるような、より良い指標を考えることが大事である。
- ・財務について、もう少し具体的に実施内容を記載してはどうか。組織的に経費効率化をする体制を作り、持続化されると良い。

4 自己点検・評価及び情報の提供について

- ・評価について、「令和10年度の第4期認証評価を見据えてシステムを確立」と記載があるが、中期目標期間は令和12年度までであり、令和10年度以降の内容も記載いただきたい。
- ・情報発信について、新キャンパスの立地を生かした広報を進めていただきたい。波及力がある立地にあるにも関わらず、芸大であるというアピールや芸術を社会に広げていくという空気感がまだまだ出てきていないと感じる。

5 その他の業務内容について

- ・安全管理について、工房等、工具を使用する機会があると思うが、学生が怪我をしないよう、安全基準や作業基準の設定、設備そのものの安全性の向上等に大学としてしっかりと取り組む必要がある。外部の知見を入れて安全対策をすることが非常に大事である。